

## 平成 27 年度 学校法人福岡大学 外部評価結果

### 1 総評

福岡大学は、平成 26 年度に実施した自己点検・評価に基づき、平成 27 年度に公益財団法人大学基準協会による大学評価（認証評価）を受審し、同協会の定める大学基準に適合しているとの認証を受けた。学校法人福岡大学外部評価委員会（以下、外部評価委員会）は平成 26 年度に設置され、福岡大学における自己点検・評価が効果的に運用されているかという点を中心に据え活動してきた。外部評価委員会の助言や提言が、福岡大学の大学基準適合の一助となったのであれば、外部評価委員会委員として喜ばしい限りである。福岡大学の教職員が平素から一丸となって内部質保証を追求し、自己点検・評価に取り組みされた証左であり、心から敬意を表するものである。

外部評価においては、前年度の自己点検・評価の結果を通じて明らかとなった課題を解決するために改善活動が適切に行われ、教育・研究・医療・地域貢献の質が保証され、質向上を図るためのシステムとして有効に機能しているか、という視点から評価を行った。

その結果、福岡大学の自己点検・評価活動は、課題の解決に向け、「到達目標」と「指標」を設定し、平成 27 年度の目標と計画を立て、その進捗状況が把握できるようになっていることを確認した。併せて、大学改革への高い意識のもと、体系的な自己点検・評価システムが構築されていると判断する。また、福岡大学独自の点検・評価項目として「研究活動」を設定し、点検・評価していることは、教育内容の質向上に資する活動として位置付けることができる。

総評として、福岡大学の自己点検・評価活動は、概ね成果が上がっていると評価する。

### 2 評価できる点

まず、平成 27 年度の自己点検・評価報告書の作成が年度内に完了していることから、PDCA サイクルを速やかに実行するという姿勢を評価したい。

昨今、子どもの貧困が社会的な問題となっており、負の連鎖を断ち切るためにも奨学金制度の拡充が望まれるが、入学前予約型給付奨学金（七隈の杜 給付奨学金、七隈の杜 第 3 子以降特別給付奨学金）を、新たに平成 28 年度入学者を対象に創設した点は評価できる。これは、マスコミ等にも取り上げられており、受験者の増加に結び付いただけでなく、社会的な期待に応えることができたという点においても評価したい。また、商学部第二部において、キャンパス内における大学業務を補助し、働きながら学びたいという学生を支援する「学生支援ワークスタディ事業」が平成 28 年度から開始されるが、その成果にも注目したい。

教学 IR の推進については、教学 IR 室の設置に向けて集中的に検討を重ね、平成 28 年度における設置が決定されたことは評価でき、今後は要員の確保など速やかな体制の整備と

実質化に力を注いでほしい。

### 3 改善活動への助言、提言

理念・目的、教育研究組織、教育課程・教育内容については、検証に至っていない、定期的に検証が実施されていない、あるいは検証が不十分としている部局も一部に見受けられるが、これらは何れも教育・研究の根幹に係わる重要な項目であり、速やかな検証を求めたい。

教員の能力や資質の向上を図るためには、授業アンケートの実施に加え、組織的、制度的に教員間での意見交換や教授法の発表を行うなど、実践を活発化させるべきと思われる。

科研費の獲得件数や獲得額にとどまらず、社会が大学に求める研究内容に絶えずアンテナを張り、社会や産業界のニーズなどを把握することも重要であり、研究成果の社会還元という視点での点検が必要である。

地域創生、地方の活性化の観点からは、学生の地場企業への就職支援を更に充実して頂きたい。地元経済界の協力を得て、学生が大企業だけではなく地元の中堅企業にも目を向け、より興味を持つ仕組みの構築を図る必要がある。例えば、地場企業に就職した卒業生の活躍ぶりを伝えたり、地元で社長になった福大卒の先輩の体験談を直接聞く機会を定期的に実施するなどの活動に取り組むことである。

大学の規模を考えると留学生の受入れ数が少ないと思われる。グローバル社会において活躍できる人材を育成するために、多様な国々からの留学生を増やしキャンパスの国際化に取り組むことを求めたい。また、女性教職員について、数値目標を掲げ増加に取り組んでいるようだが、依然として比率が低い状況が続いており、男女共同参画社会の実現に寄与するためにも、女性教職員を積極的に採用し、育成に努めて頂きたい。

学部や研究科、センターなどの個々の部局における活動は充実しているが、大規模大学であることも影響し、各部局における取り組みに統一性が欠けており、全体としてのまとまりが弱い部分も見受けられる。すべての学部、研究科がひとつのキャンパスに集積する福岡大学の強みを発揮するためにも、大学全体に横糸を通すような方針や体制の整備が必要であり、これにより更に大きく社会へ貢献することが期待できる。

大学における教育について、その点検・評価結果を定量的に表すことには困難が伴い、現時点ではほとんどが定性的な自己点検・評価となっているが、可能な限り数値目標を掲げ、定量的な評価を行う仕組みの構築を検討して頂きたい。

各取り組みの進捗や成果については、達成度や推移に数値を用いることにより、経年比較することも可能となる。社会への発信方法にも趣向を凝らして頂きたい。

### 4 福岡大学に期待すること

大規模大学として部局間の連携がとりにくい点は理解できるが、一方では大規模大学でしか成し得ない取り組みもある。積極的な活動の展開に期待したい。例えば、福岡市との

包括連携協定において、多様な分野における福岡大学の知的資源を活用するなど、魅力的な活動に取り組めるものと確信する。また、福岡大学は卒業生が25万人を超え、地元の企業で活躍している方も多く、そのような方々から最新のニーズを把握したり、地域で働くことの魅力を伝えるために教壇に立って頂くなど、個人々人をベースにした協力関係を築いてほしい。福岡・九州に住みながらも日本、世界を牽引するような人材の輩出に尽力して頂きたい。

福岡大学には、福岡市に位置する西日本屈指の私立総合大学として、地域からの期待がますます高くなっていることを深く認識し、その期待に応えることが社会的使命であることを教職員・学生で共有して頂きたい。今回の外部評価結果も踏まえ、教育・研究・医療・地域貢献の更なる向上に期待したい。

平成28年5月1日

学校法人福岡大学外部評価委員

委員長 永田見生 ㊞  
(久留米大学 学長)

委員 高木直人 ㊞  
(九州経済調査協会理事長)

委員 中園政直 ㊞  
(福岡市副市長)

委員 丸野俊一 ㊞  
(国立大学法人九州大学  
理事・副学長)